



2026年度から 理工学部 理工学科 物質生命科学系になります

静岡理科大学 理工学部 物質生命科学科は、2026年度入学生より、**理工学部 理工学科 物質生命科学系**に改組されます。改組により、同じ理工学科となる機械工学系と電気電子工学系で開講される講義を、手続き不要で広く履修できるようになります。

「バイオ食品科学コース」は「応用生命化学コース」に、「環境新素材コース」は「環境応用化学コース」に名称変更します。「応用生命化学コース」は農学（食品）系の化学を中心に、「環境応用化学コース」は理工系・材料科学系の化学を中心に教育を行っていることをイメージしやすくするための名称変更です。さらに、これまでの教育、研究、就職実績を背景に、「製薬・化粧品教育プログラム」を設けます。**取得可能な資格はこれまでと変更ありません。**

2025年度入学生まで

物質生命科学科

バイオ食品科学コース
環境新素材コース



2026年度入学生から

理工学科 **物質生命科学系**

応用生命化学コース（主に農学（食品）系）
環境応用化学コース（理学、工学、材料系）
製薬・化粧品 教育プログラム

学士
(理学)

- ・毒物劇物取扱責任者
- ・火薬類製造保安責任者（試験科目の一部免除）
- ・甲種危険物取扱者（受験資格）

2008 教職課程設置（高等学校教員（理科）） 継続

2012 「食品衛生管理者および食品衛生監視員養成施設」
（バイオ食品科学コース⇒応用生命化学コース）

- 改組後も**
- ・教員や研究分野の構成に変更ありません。
 - ・カリキュラムに大きな変更はありません。
 - ・取得できる資格に変更はありません。
 - ・募集人数、入試区分、種別、試験内容に大きな変更はありません。

2026年度入学生 総合型選抜入試（中期）についてのお知らせ

物質生命科学科の総合型選抜入試は

- ・**エントリー時に選んだ理科1科目を受験+面接の『能力型 学力1科目』**

物理・化学・生物から1科目選択（出題範囲は、いずれも物理基礎、化学基礎、生物基礎までの内容）

- ・講義を視聴してレポートを作成+面接の『志向型 講義・レポート』

の2種類で行います。エントリー期間など詳しくは募集要項をご覧ください。

また、Webでも情報を公開しております。

総合型選抜入試情報ページ
（受験生サイト内）



総合型選抜 前期B（エントリー：9/3 - 9/16）	『能力型 学力1科目』・『志向型 講義・レポート』
総合型選抜 中期（エントリー：11/7 - 11/20）	『能力型 学力1科目』・『志向型 講義・レポート』
総合型選抜 後期（エントリー：1/20 - 2/5）	『志向型 講義・レポート』のみ





令和7年度(2025年度) 一大学院 修士課程 中間発表会を開催しました

5月28日、大学院修士課程2年生の(全学49名のうち、材料科学専攻(本学科大学院)は18名)中間発表会が開催されました。材料科学専攻はポスター形式による発表を行いました。当日は教員だけでなく学部生も自由に参加し、活発な討論が行われました。



大学院生による学会での発表が高評価を受けています

昨年度に引き続き、今年度も、物質生命科学科の研究室の大学院生が、学会発表で高い評価を受けています。国立大学の大学院生に混じっての受賞です。受賞した大学院生とその指導教員はもとより、物質生命科学科全体の自信につながるうれしい知らせです。

・大西 彩羽さん(静岡県立浜名業高等学校卒) 食品機能化学研究室(吉川 尚子 教授)・大学院修士課程2年
優秀奨励賞 2025年5月 第89回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム(名古屋市立大学)

演題「RNA-seqを用いたクルマエビ雄性生殖組織におけるD-グルタミン酸生合成酵素の探索」

・鈴木 琉太さん(静岡県立島田工業高等学校卒) 応用微生物学研究室(齋藤 明広 教授)・大学院修士課程2年
優秀ポスター賞 2025年6月 日本土壤微生物学会2025年度大会(茨城県県南生涯学習センター)

演題「キチン分解における土壌細菌間クロスフィーディング: キチン非分解細菌 *Ensifer* sp. 5-50 株のチアミン生産能とチアミン要求性キチン分解細菌 *Agromyces* sp. 5-23株のゲノム解析」

南齋 勉 教授(非平衡界面化学研究室)の研究がNHKで紹介されました

富士山の山頂の研究所を舞台にした研究が取り上げられました。世界で初めて雲の中から発見された「〇〇」やゲリラ豪雨の種となる可能性、天気予報、私たちの暮らしとの関わりなど、興味深い内容が紹介されました。

番組名: NHK「たっぷり静岡+」

放送日時: 2025年7月18日

内容: 「だもんで。富士山山頂の研究所。」

宮地 竜郎 教授(食品安全研究室)の記事が新聞に掲載されました

日本経済新聞の取材を受け、「食べ物が腐るのはなぜ? 菌が別の物質にかえてしまう」と題した記事が掲載されました。

新聞名: 日本経済新聞

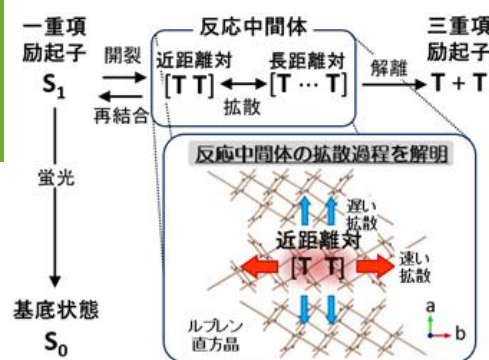
掲載日時: 2025年5月24日 夕刊

場所: 「親子スクール理科学」

脇川 祐介 准教授(分子物理化学研究室)らが、光から2倍の電荷を生成する一重項励起子分裂の反応中間体が有機分子結晶中で2次元拡散することを解明しました

一重項励起子分裂の反応中間体がルブレン分子の結晶中で2次元的に拡散し、速い拡散と遅い拡散が存在(右図)することを明らかにしました。有機太陽電池の光電変換効率を2倍にできる可能性につながります。

J. Chem. Phys. 162, 124710 (2025)



2025年度 9月以降のオープンキャンパス日程 (要事前申し込み)

9/23(火祝), 10/26(日), 3/29(日)

詳細は受験生サイトへ
<https://navi.sist.ac.jp/>

